

～学校運営協議会(コミュニティ・スクール)と地域学校協働本部の 一体的推進を図るために～ 合同研修会の開催！

令和7年6月13日に「地域創生2.0基本構想」が閣議決定されました。この基本構想では、「地域に愛着を持ち、地域で活躍する人材の育成」が政策パッケージとして掲げられ、「学校と地域との連携の深化、学校を核とした魅力的な地域づくり」に関する内容が明記され、学校運営協議会における協議の場や地域学校協働活動の積極的な活用が求められました。



このようなことから、本年度の研修会も昨年度と同様、学校運営協議会との合同で行うこととし、8月22日(金)に文化センター小ホールで、参加者60名で開催しました。

講師には水戸教育事務所主任社会教育主事の羽石 康弘先生、主査の佐々木 英治先生をお招きし、「夢のある学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な推進」のテーマのもとご講話をいただきました。羽石先生からは冒頭で、本年3月まで勤務していた中学校が廃校となり、地域の衰退が進行してしまったこと、そのことから地域と学校の連携・協働体制の必要性や学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な推進を図っていく意義の話がありました。また、他の市町村の取組事例などの紹介もありました。佐々木先生からは以前勤務していた学校での取組で、質の高い学びを実現するために、教科横断的な取組により、60時間を生み出して実践した事例の紹介がありました。この学校は学校運営協議会設置校でもあったことから、家庭や地域の協力と理解が高まり、この取組は今でも継続しているとのことでした。このように取組が一過性のものではなく、持続可能なものにしていくことが大切であり、それには学校と家庭・地域の連携・協働が必要であるとのことでした。

講話の後には、「育てたい児童・生徒像」のテーマのもと、各小中学校に分かれミニ熟議を行いました。当事者意識を持ち、熟慮と議論を重ねながら、共通認識のもと解決していくことの必要性を学びました。

最後に、佐々木先生から「常陸大宮市の地域学校協働活動は、長年取り組んでいることからとても充実している。学校運営協議会が市内の全小中学校に設置されれば、県内はもちろん全国でも模範となるような学校(地域)となる」というお言葉もいただきました。本事務局としては、学校運営協議会の設置校を増やし、地域・家庭と学校の連携・協働による一体的な推進をさらに図って参りたいと思います。

(注) ※ コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を設置した学校のこと。



【講話の様子】



【ミニ熟議の様子】